

修学旅行特集



文化祭を経て例年クラスがまとまります。けれど、3年生はまとまったと思うともう卒業を迎えます。

早いもので、もう飛び立つ時期となりました。飛行機で言えば「離陸」の時です。

離陸するにはずいぶんのエネルギーが必要です。

ちからをためて、一気に離陸する——飛行機の飛翔の瞬間に私たちは緊張すると同時にいつもわくわくさせられます。

さて、3年生諸君はそれまで培ってためてきたエネルギーをここで費やし、一気に離陸。進路を決定して卒業していきます。

この緊張と同時に将来の夢の膨らむ瞬間に、私たち後に残る者をもぜひわくわくさせてほしいと思います。

学校長 井戸 裕久

中村勘三郎さんを偲んで

本校体育館を会場に歌舞伎興行をされた十八代目中村勘三郎さんが、2012年12月5日東京都内の病院で逝去されました。

勘三郎さんは、2006年9月の十八代目中村勘三郎襲名披露興行の最終公演を、名前の由来でもある中村の地で飾りたいと熱望されました。その熱意にお応えして、本校体育館をお貸ししました。興行会場である体育館は大変暑いのですが、急ぎよ空調も入れ、内部を芝居小屋に一時改装しての公演となりました。

四日間に及ぶ興行期間中は学校を休校し、生徒保護者・教職員で組織するにわか仕立てのボランティアスタッフが興行を支えました。勘三郎さんは終始飾り気のない、温厚実直なもので私たちに接してくださいました。

あれから6年余。再公演を願う声も空しく、襲名披露興行が最後の公演となりましたことは、無念という以外他に言葉はありません。

ここに心より哀悼の意を表します。

合掌



Schedule <行事予定>

2月		
16	土	卒業式
20	水	2年生音楽科学年末考査(～26日まで)
27	水	学年末考査(～3月5日まで)
3月		
2	土	2年生音楽科オーストラリア修学旅行(～8日まで)
7	木	進路と生き方を考える集い(1年生)
8	金	卒業生を囲む集い(2年生)
13	水	進級判定発表
19	火	修了式
4月		
5	金	在校生登校日
6	土	入学式
8	月	始業式

平成24年度「愛知県私立学校経常費補助金」の交付金額が決定しました

保護者の皆様には、ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育にご支援を賜りありがとうございます。また、本校体育館など地域ごとに開催された「地域別県民文化大祭典—オータムフェスティバル」へのご協力や、助成金署名など私学助成金増額の運動にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、平成24年度の愛知県私立学校経常費補助金の交付金額が408,095千円(生徒一人当たり補助額34万5843円)と決定しましたのでご報告します。県の財政状況悪化のなかでの補助金交付に感謝するとともに、今後一層の教育条件の整備充実に努め、健全経営に向けて財政の安定化を計る所存です。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

●同朋高等学校「愛知県私立学校経常費補助金」交付決定額

年度	一般補助金	特別補助金	事務費	総額	生徒数	一人当たり補助額
平成24年度	395,385千円	11,828千円	882千円	408,095千円	1,180人	34万5843円
平成23年度	395,685千円	10,628千円	931千円	407,244千円	1,185人	34万3665円

修学旅行



修学旅行事前学習

11月9日に自由選択講座として元兵士の近藤さん(はしも)に平和講話をしていただきました。近藤さんは中国戦線と沖縄戦の「二つの戦場」を体験された方です。戦場で同年兵を亡くした場面では目を真っ赤にして話されていました。自身の加害行為も含めて戦争の愚かさ、平和の尊さを力強く生徒に伝えていただきました。講話が終わった後も自然と近藤さん

の周りに人が集まって質問をしていたことから、生徒にとつて大変貴重な講話になったと感じました。
 英・国・社の授業に加えて修学旅行委員発行のニュースや壁新聞も現地での学びにつながる事前学習となりました。平和委員では2階フロアに「沖縄戦関連」1階食堂前に「米軍基地関連」の壁新聞を掲示しました。2年生だけではなく、他学年の生徒も立ち止まって読んでいました。事前学習や修学旅行を通して生徒は多くの人と出会い、様々なことを感じたと思います。この沖縄修学旅行は「ゴール」ではなく「ステップ」です。沖縄で学んだことを今後の生活に活かしてもらいたいと思います。
 (教諭/松田)



2年生普通科・商業科9クラスが、3団に分かれて沖縄修学旅行に行っていました。同朋高校として今年で23回目の沖縄修学旅行で、しかも「沖縄返還40周年」という記念すべき年でもあったため、生徒による事前学習は万全であったと自負しています。
 初日の平和式典は、各クラスが独自の「平和宣言文」を作成し、整然と執り行われ、平和が軽いもので終わらないようにと誓いました。3日目のコース別研修

伊江島民泊体験についても、沖縄の自然の素晴らしさや、人の温かさに、生徒達も素直に喜び、本当にいい思い出として残ったと感じました。
 修学旅行を通して、学び、体験したところが、今後の人生に何かプラスになることを信じています。
 準備していただいた関係者のみなさん、本当にありがとうございました。
 (2年生学年主任/高橋)



今年度はクラスごとに「平和宣言文」を作成しました。その中の1つを紹介します。

平和宣言文

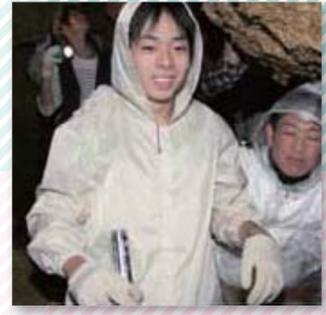
咲き誇る花々、やわらかな若葉色、果てしなく広がるサトウキビ畑。各家からは民謡が流れ温かい食べ物があり、心優しい人々がいます。雲一つない空、ガラスを散りばめたような海、それが今の沖縄です。

今から67年前、たくさんの命が一瞬で奪われた悲劇がありました。国のために死ぬのが当たり前、平和という言葉が存在しないくらいに今と昔では対照的でした。人々が苦しみ、悲しみ、辛い思いをしたガマに私達はいます。人々は死を選ばざるを得ない状況にありました。戦争に巻き込まれた罪のない人々がどんな思いで攻撃から逃げてきたのか、今の私達にはわかりません。しかし、ガマはたくさんの人が亡くなった場所でもあるけれど、反対にたくさんの人が生き残った場所でもあります。だからガマは人々の色々な思いが詰まった大切な場所であると思います。

花々は踏みつぶされ、サトウキビ畑には爆弾が落とされ、各地から悲鳴や叫び声が響き渡る時代は終わりました。そして沖縄が日本に復帰して40年です。しかし私達は沖縄戦から目を背けてはいけません。戦争では何も解決しないし、悲しみ、苦しみが増えるだけということを後世に伝えていかなければなりません。毎日平和に暮らしていける沖縄、お互いに助け合う日本、戦争のない世界にしていきたいです。一人一人が命を大切に、個人を尊重する社会へと変わり、戦争という命を奪うだけの愚かな行為は二度としてはいけません。

私達は平和な未来にすることを誓います。

同朋高等学校 2年8組 生徒一同



●修学旅行行程表

1日目	中部国際空港 → 那覇空港 → 韓国人慰霊塔…… 平和記念公園…… 平和の礎…… 平和祈念資料館 → ひめゆりの塔 → ガマ体験 → ホテル
2日目	ホテル → コース別研修 → 本部港 → 伊江港…… 伊江島民泊(ホームステイ)
3日目	各家庭で体験学習・平和資料館「ヌチドゥタカラの家」見学…… 伊江港 → 本部港 → ホテル
4日目	ホテル → 道の駅かでな → 嘉数高台(普天間基地) → 国際通り → 那覇空港 → 中部国際空港

沖繩の将来を真剣に考える高校生に驚き

202 杉野 真奈香 (黄金中学校出身)

沖繩に出かけたのは2回目です。1回目は家族旅行で、私は小学生だったため、沖繩で戦争があったことや米軍基地の問題について何も知りませんでした。しかし今回の修学旅行では、平和の礎を見たり、平和祈念資料館や元ひめゆり学徒の人の話を聞いたりすると、今までの旅行とはまったく違うものでした。平和の礎には、たくさんの方が刻まれている。これだけたくさんの方が沖繩で亡くなったのだと強く実感しました。朝鮮の方の刻銘はこれ以上増えないかもしれないという平和ガイドさんのお話が印象的でした。元ひめゆり学徒の方のお話は、友人が殺された時の様子を何度も話していらつやつてそれだけ強く心に残っているんだなと感じました。もし、自分の友人が目の前で死んでいくところを見たらどうなるのか想像できないし、何もしてあげられないことがとても辛いことだと思います。私は沖繩の高校生との交流会にも参加しました。緊張したけど、いろいろなことを話すことができて良い経験になったなと思います。沖繩の高校生たちは沖繩の問題について知識が豊富で、自分たちには何が出来るかどうすれば米軍基地を減らしていけるかとても深く考えていて驚きました。それと同時に、少し自分が恥ずかしくなりました。自分が沖繩に住んでいてもそこまで考えられるかわからないから。2日目には辺野古の普天間基地移設予定地にも行きました。そこには様々なメッセージの書かれた横断幕があり、とても生々しく感じました。座り込みを行なっている方々にも会い、細い体で座り込みを三日以上も続けている姿を見て感動しました。沖繩の問題は沖繩だけの問題じゃなく、日本全体の問題です。だからこれからも沖繩を意識していきたいと思いました。



生々しく残る沖繩戦の爪跡

209 土井 美沙季 (宮市立奥中学校出身)

沖繩の修学旅行では、4日のうち1日平日平和学習でした。1日目は平和祈念公園、ひめゆり資料館、ヌマチガマでした。平和祈念公園の資料館では、当時の様子が写真やオブジェなどで再現されていて、その時の恐怖がこちらまで伝わってくるようでした。弾薬や青酸カリの瓶が写真とともに並んでいる様子が、壕の中にあるより怖かったです。資料館から見下ろした平和の礎はそのコンセプトのとおり、見ているだけで気持ちが悪くなりました。観光に来ていた外国人の人々はこの平和の礎を見てどう感じるのだろう、と思いました。ひめゆり資料館で聞いた話はやはり何度聞いても当時の情景は浮かんでこなくて、どこか夢心地でした。けれど、声を荒げたりすることもせず静かに語るさち子さんの声は私の心に染み渡ってくるようでした。戦争の悲惨さや当時の生活の過酷さなど、改めて感じる事ができたと思います。1日目最後のヌマチガマでは、平和ガイドさんのお話が特に印象的でした。当時のことをこんなに詳しく語れるのはそれだけ戦争がひどいものであることを伝えてくれようとしているかと思いました。ガマの中は地面がとてもぬかるんでいて、懐中電灯を消すと本当に真っ暗でした。ライターでとても明るくなくて驚きました。壕の中は12月だというのに全く寒くなくて、夏は本当に暑かったらと思ういました。壕の中で聞いた戦争の話は、いまだに一番臨場感があったと感じています。真っ暗闇の中では、当時の人の息遣いが聞こえてきそうでした。4日目の午前は米軍基地と嘉数高台公園



すべて奪ってしまおうのだと思いました。沖繩は街のど真ん中でも戦争の時に使われていたトーチカや戦争の碑、米軍基地などがあり、沖繩戦の爪跡が生々しく残っている場所だと改めて感じました。この感覚を絶対に忘れてはいけないと思いました。戦争とは、終わっても決して消えない恐ろしい爪痕を残すものだとして改めて考えました。けれど平和は、この恐ろしい体験があつてこそできるものなのではないかと思いました。

誰からも愛される人になりましょう 教職員一同



「鏡は先に笑わない」 私が私立の教員を目指すきっかけとなった言葉を贈ります。鏡の中の自分は決して先に笑いません。自分が笑えば、相手も笑う。自分が変われば、相手も変わる。自分が変わらなければ、相手も変わらない。何事も自分から行動することが大切なのです。大きく成長したみんなになら伝わるかな?卒業おめでとう。 303 担任 萩原 夕貴

卒業生へのメッセージ Last Message

今日2月16日413名の生徒が同朋高校を卒業します。3年間卒業生を見守り・育み・時に厳しく指導された担任の先生方より、卒業生のみなさんに対し最後のメッセージを寄せていただきました。

3年間で自他の足音の違いを聞き分けられるようになりましたか。3年間で未来を生きるための足元を固められましたか。3年間で自分や仲間の人生に足跡を残せましたか。ここから先の未来は、あなたたちと私たち大人とで築いていくこととなります。手を携えて社会をつくっていきましょう。 301 担任 寺町 健

1秒に2人と会ったとしても、一生のうちに世界中のすべての人と出会えることはできません。あなたたちに出会えたことは偶然の「奇跡」なのです。これから先もいろいろな出会いがあるでしょう。人を大切にすれば、自ずと人に恵まれるものです。縁を大切に、人を大切に、人から愛される人であってほしい。卒業おめでとう。 302 担任 川崎 菜美子

天台宗には「己を忘れて他を利用する」という意味の「忘己利他(もうごりた)」という言葉があるそうです。一般的な言葉に置き換えると「義理」や「人情」という言葉になるみたいです。今ではあまり使われなくなった言葉になってしまいましたが、義理や人情を大切にしたいと思えます。常に自分中心に物事を考えるだけではなく、みんなを幸せにするにはどうしたらいいかを考えることが、世の中で何かをするときには必要になってくると思います。他人を思いやる心があればどんな厳しい世の中でもいつか誰かが助けてくれると思えます。人のために何かできる人間になってください。 304 担任 藤山 茂

2年間でしたが、私がみなさんに語り続けてきたことは、「集団のなかで力を発揮できる人間になれ」ということです。まず集団を創るために、できる限りのことをしなさい。その上で、有能な人間に囲まれても負けないだけの力があるかどうか。種はまいたつもりです。花を咲かせることができるかどうかは、あなた次第です。いつてらっしゃい。 307 担任 小堀 能任

卒業おめでとう! 卒業は、「進学・就職」と、それぞれがそれぞれの道に進む岐路です。同朋で懸命に取り組んだ様々なことは次のステージに進む礎となっているはず。進学・就職ともに、これから世の中に精通する多くのことを学びながら成長してほしいものです。皆さんが思い描く将来を是非とも現実のものとして具現化してください。 310 担任 榎木 哲郎

卒業おめでとう。皆さんとは1年もしくは1年半のお付き合いをさせていただいた社会科の宮城です。あつという間の月日でした。皆さんの心の成長に立ち会い、「ずいぶん大人の考えをするようになったな」と感じる人も何人かいます。卒業してからも、自分を磨き、更にいっそう成長してほしいと願っています。 まずは、卒業おめでとう!! 305 担任 宮城 道良

卒業おめでとう。3年前、まだまだ初々しかった君たちの姿が懐かしく思えると同時に、今の君たちが立派な大人の入口に差し掛かっていることをうれしく思います。 次のステージへ行って、後悔のない道を選び、自信を持って前へ進んで行ってください。 308 担任 内田 義博

権力や社会風潮に迎合しない態度を意味する「独立」 自己の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行う「自尊」 私の学級通信のタイトルは、3年間この「独立自尊」を使いました。責任を持って自ら考え、判断し、行動することでこの厳しい時代を乗り越えてほしい。 卒業おめでとう! 311 担任 平野 裕騎

ご卒業おめでとうございます。皆さんは私にとって初めての卒業生であり、特別な存在です。一度きりの出会いに感謝し、3年間で自分が成し遂げたことに誇りを持って、これからの人生を歩んでください。 そして、他人のために力を尽くせる大人になることを願っています。 306 担任 武久 英人

卒業おめでとう!! 心のふる里=同朋 ふる里は 遠きにありて 思うもの 親父 309 担任 柏原 良教

高校生活はいかがでしたか。多くの経験を積み重ねることができましたか。 苦しい経験は、成長の糧であると同時に、皆さんにとって大きな財産でもあります。 これから船出する社会は、大変厳しい所です。 夢を持つことを忘れないで、経験を活かしながら、真摯な態度で人生を歩んでください。 312 担任 岡山 優

Club & Award News

- 柔道部
●平成24年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部予選
男子団体 第4位
女子団体 準優勝
●愛知県高等学校新人体育大会
女子団体
女子52kg級 松本 悠里(106) 知多市立旭南中学校出身 3位
女子57kg級 平野 未紗(206) 知多市立東部中学校出身 優勝
女子70kg級 森 彩華(206) 知多市立東部中学校出身 優勝
女子無差別級 上山 慧真(109) 桑名市立成徳中学校出身 2位
サッカー部
●平成24年度愛知県高等学校新人体育大会サッカー競技名南支部予選会 第5位
女子バスケットボール部
●平成24年度愛知県高等学校新人体育大会
バスケットボール競技名南支部予選会 第6位

- 乗馬部
●第54回市民スポーツ祭
高校の部 馬術競技 二村 峻介(104) 一柳中学校出身 第1位
●第31回中部日本ジュニア馬術大会
ノーマルジャンピング60ジュニアBの部 二村 峻介(104) 一柳中学校出身 第2位
標準障害飛越競技L級1CジュニアAの部 小岩屋 愛(204) 守山中学校出身 第3位
標準障害飛越競技L級1CジュニアBの部 二村 峻介(104) 一柳中学校出身 第3位
●愛知高校馬術王座決定戦
団体総合 第2位
障害飛越競技 山下 慈一(307) 大江中学校出身 第1位
●平成24年度愛知県高等学校新人体育大会
馬場馬術競技 二川 七海(102) 御田中学校出身 第3位
放送部
●東海ラジオ放送主催第42回高等学校ラジオ作品コンクール番組部門 佳作 「ある日本兵の加害と被害」

裏方として支えた球技大会

105 川地 一輝 (津島市立神守中学校出身)



私は、後期クラス副委員長としてクラ運に参加しています。私はこれまで、二度も人をまとめる側に立つことがなく、中学までは先生が行事を行ってくださっていました。今回の球技大会は、すべて自分たちでこなさなければならず、とても心配でした。連日遅くまで残ってルールやトーナメント表作り、当日の役割分担など多くのことを考え、決めていきました。その中で最初にでてきた問題が「どうしたら全員が楽しむことができるのか」ということでした。全クラスにアンケートを取り、集計して、その中から多い順に決定していきましました。しかし、今年度はグラウンド改修工事の関係で、希望通りの競技が行えないということで、再度考え直すことになりました。



今回の球技大会は、一度も人をまとめる経験をしたことのない私に、大変さややりがいを教えてくれました。この行事で、一年生全体の輪も広がったように思うので、裏方で頑張った良かったと思えました。私自身、一歩前に進むことができたように思えます。

私の思った通り、105は順調に試合が進み、ついに決勝まで進むことができました。試合はPK戦まで持ち込み、決勝戦に似合う試合となりました。結果は優勝でした。これは決勝に出場した選手の勝利ではなく、全員でつかった勝利です。そして105の団結力の強さと仲の良さ、これらが優れていたからこそ勝利だと思えました。

「納税の義務」を考える機会に



商業科は3年生を対象に毎年12月に外部から専門家を講師として招き、金融講演会を行っています。今年度は、中村税務署にご協力いただき、日置実税理士による「租税教室」を行いました。

租税教室では、納税の意義や税の種類など、分かりやすく教えていただきました。また、消費税増税や税理士と公認会計士の違いなど、生徒の疑問に対しても丁寧に答えていただきました。

租税教室を終えた生徒からは、「増税は嫌だけれど、どうして増税しなければならぬのかが分かった」「税理士という仕事に興味を持った」などの感想が寄せられました。

卒業を控えた生徒に対し、国民の三大義務のひとつである「納税の義務」について考える貴重な機会となりました。

第44回卒業演奏会



1月11日(金)、電気文化会館サコンサートホールを会場に、音楽科生徒による「第44回卒業演奏会」を行いました。
この演奏会は年間3回ある音楽科の定期演奏会の最後を飾るもので、オーディションで選ばれた3年生が出演しました。
高校生活最後の締めくくりとなるステージで、ピアノ、コントラバス、フルート、ホルン、声楽、電子オルガン、ユーフォニアム、打楽器それぞれの専攻で熱のこもった演奏を披露し、多数の観客のみならず、惜しみない拍手をいただきました。

オーストリア修学旅行

3月2日から8日の予定で、2年生音楽科の生徒がオーストリアのウィーンとザルツブルクへ修学旅行に出かけます。楽聖たちの史跡をたどり、国立オペラ座やミラベル宮殿を見学します。また、平和学習の一環として、ナチス強制収容所を訪れます。

同朋オープン
フォーラム2012

見えてきた「新しい教育」のヒント

未来を見つめて成長する生徒・親・先生・学校へ

多目的ホールをメイン会場に、約1500名の参加者を集めた「同朋オープンフォーラム2012」が12月8日に開催されました。

今年のテーマは「未来を見つめて成長する生徒・親・先生・学校」。このテーマに基づき、全体会と①「自主活動の中で自律の精神は育つ」②「キャリアデザイン」どう描く自分の将来」③「これぞ同朋の授業―未来のための学力を」の3分科会を企画して、今年度のフォーラムを実施しました。

全体会の三重大学佐藤廣和教授による問題提起では、現代の若者を取り巻く環境の大きな変化がリアルに描き出されました。大学での学生のドロブアウトの現状や家庭環境による格差の現状を例に、「生き方を自由に選択できるはずが、実際には若者が生き方を自由に選択できていない実態」など現代の若者が抱える雇用に関する問題点が取り上げられました。佐藤教授からは「この現状の中で若者がどうやって生き方を見つけていくか」「動機・目的意識



志がキーワードとなるカリキュラムが学校には必要である」と問題提起いただきました。佐藤先生の話を受けて、「親として感じる所が多かった。この話は何ら子どもに聞かせたい」といった保護者の感想が寄せられました。

分科会①では、生徒・教員のレポートをきっかけに、「モラル」と「自主性」問題で保護者の議論が白熱しました。分科会②では、「道を切り拓くことの大変さ」について、外部から招いた講師レポートに刺激を受け、生徒・保護者・教員の三者それぞれの立場で意見交流を行いました。分科会③では、「模擬授業」「授業アンケート」をもとに、日頃は同じ土俵で話されることのない「授業」について、三者で話し合い、授業改革のヒントとなる交流を行いました。

今回は名称を「同朋オープンフォーラム」に変更して、2度目の開催となりました。残念ながら参加者の大幅な増加という目標は達成できませんでしたが、全体会・分科会ともに内容が充実し、新しい「同朋の教育」を考えるヒントになるものが見えてきたと思われま。より良い同朋を目指して、三者(時には市民を交えて四者)でさまざまな観点から、同朋高校のこれらについて話し合い、その中から次へのステップのヒントを見つけ出すのがフォーラムの目的なら、フォーラム自体を同朋高校の主役である生徒がもっと積極的に関わるスタイルに変える必要があります。今、生徒にとって「自身の手で将来の道を切り拓く」「自主自立の精神を身につける」ことが大きな課題なら、これらの問題について、学校の中で何が出来るか三者で徹底的に話し合い、より良い方向を見つけられるような場が必要だと思われま。

(オープンフォーラム事務局長/瀧)

報恩講

11月28日は、真宗をひらかれた親鸞聖人の御命日です。真宗各派は、11月28日を中心に、親鸞聖人の徳を讃え、恩に報いる法要を行います。

親鸞聖人の教えを建学の精神とする本校は、12月4日に1年生全生徒が参加して報恩講法要を行いました。今年も生徒代表の献花をはじめ、厳かな法要となりました。また、今年度は同朋大学の浅野玄誠学長をお招きし、法話を頂戴しました。

親鸞聖人の御教えのもと、「同朋」として世の多くの人々と共に生きていくきっかけとなれば幸いです。

生徒会役員新体制



11月に2012年度後期生徒会役員選挙が行われ、次のように選出されました。

生徒会長	201 穂積 秀哉 (江南市立古知野中学校出身)
副会長	201 土屋 桃乃 (黄金中学校出身)
	207 中川 宏二郎 (港北中学校出身)
執行委員	103 小野田 龍 (駒方中学校出身)
	103 市川 菜々子 (鈴鹿市立白鳥中学校出身)
	106 中嶋 駿 (山田中学校出身)
	109 二村 優香 (一柳中学校出身)